

春季の小麦圃場で発生する広葉雑草対策

令和6年産の小麦圃場で広葉雑草（カラスノエンドウ、タデ類等）が発生しています。暖冬傾向のため、播種後の土壌処理剤で抑えられなかった広葉雑草の生育は進み、現時点では発生のない圃場でも対策が必要と思われまます。また、麦類の生育も例年より早まっており、11月上旬播種の小麦圃場の中には節間伸長を開始したのが見られます。条間が麦類で覆われる前に広葉雑草の対策を行い（図2、表1）、収量、品質の低下を防ぎましょう。



図1 小麦「さとのそら」へのカラスノエンドウ種子の混入（赤丸）

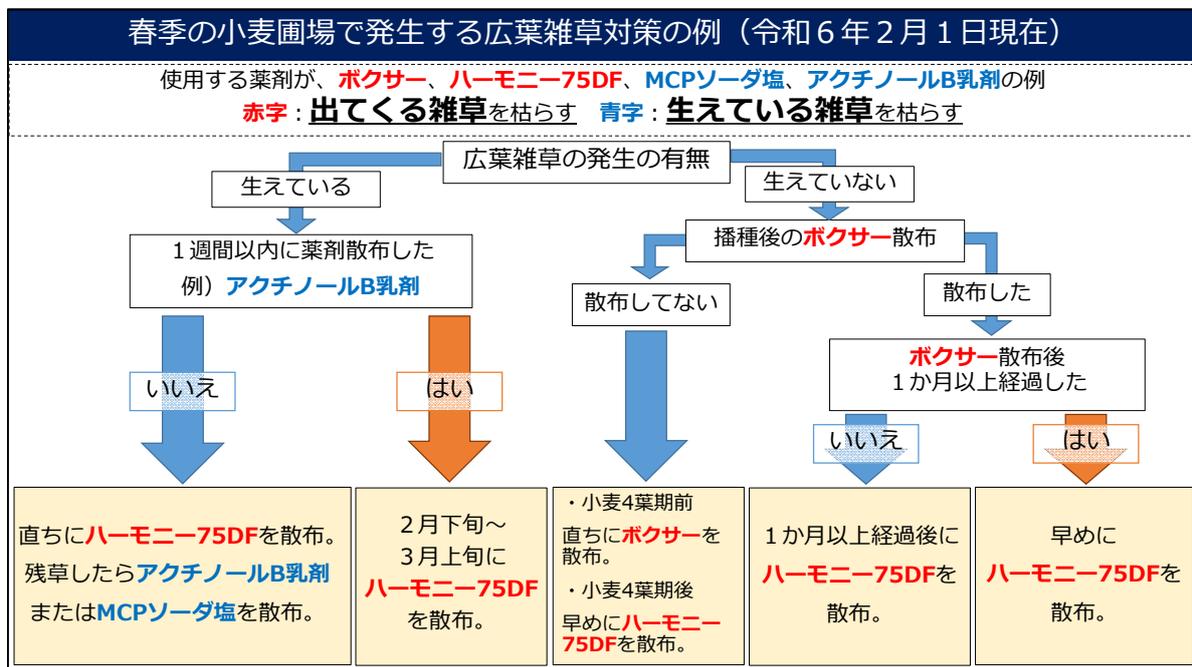


図2 春季の小麦圃場で発生する広葉雑草対策の例

表1 一年生雑草または一年生広葉雑草の防除に有効な主な除草剤

対象作物	薬剤名	使用方法	使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数
小麦	ボクサー	雑草茎葉散布 または全面土壌散布	400～500ml/10a (70～100L/10a)	秋播栽培の麦2～4葉期 (雑草発生前～発生始期)	2回以内
小麦	ハーモニー75DF	雑草茎葉散布 または全面散布	5～10g/10a (50～100L/10a)	麦3葉期～節間伸長前	1回
			3～10g/10a (50～100L/10a)	節間伸長開始期～穂ばらみ期 (但し、収穫45日前まで)	
麦類	MCPソーダ塩	雑草茎葉散布 または全面散布	200～300g/10a (70～100L/10a)	(秋播麦類) 幼穂形成期 (但し、収穫45日前まで)	1回
麦類	アクチノールB乳剤	雑草茎葉散布 または全面散布	100～200ml/10a (70～100L/10a)	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内

アクチノールB乳剤は、現在、流通を中止しています。

農業を使用する際は、必ず使用前にラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認しましょう（令和6年2月1日登録確認）。農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないように注意しましょう。